

チーム三潞(学校・家庭・地域) 心を一にして 乗り越えよう 子どもたちのために



久留米市立三潞小学校 学校だより No.7

# ぎんなん

令和5年11月27日  
校長 原文也  
児童数 492名

本年度の重点目標「主体的・協働的に取り組む子どもの育成」

## 「自分から進んで」「かかわり合う」ぎんなんフェスタ

11月12日(日)の1・2校時、ぎんなんフェスタ(学習発表会)を開催しました。本年度は、全学年の子どもたちが体育館に集まって、他の学年の発表を直接見られるようにしました。ぎんなんフェスタに向けて、子どもたちは、めあてや目標を決め、「自分から進んで」練習に取り組んでいました。また、きれいに声をそろえたり、お互いの発表のよさを見つけ合ったりして、「かかわり合う」姿もたくさん見られていました。

フェスタ当日も、気持ちをこめてはきはきとした口調で呼びかけをしたり、心を一にしてきれいな歌声やリコーダーの音色を披露したりすることができました。自分たちの思いや願いがたくさんの人たちに伝わるように、発表の仕方も工夫していました。

発表後の子どもたちの様子は、これまでの練習の成果を発揮し、お家の人たちや他の学年の人たちの前で発表することができた満足感や達成感を味わっている姿がたくさん見られました。このような経験の積み重ねが喜びや自信となり、子どもを成長させていくのだと改めて感じました。

感染症対策のため、保護者の皆様には、自分のお子さんの学年の発表時のみ、体育館に入場していただくお願いをしましたところ、スムーズな入退場にご協力いただき、心よりお礼申し上げます。皆様のご協力のおかげで、子どもたちにとって、大変実りあるぎんなんフェスタを開催することができました。ありがとうございました。



1年生「くじらぐも」



2年生「わたしの町はっけん」



3年生「みつま子ふれあい交流隊」



4年生「かかわり合いつながり合う町をめざして」



5年生「水俣に学ぶ」



6年生「差別のない社会をめざして」

## 成人教育講演会～子どもたちのために

ぎなんんフェスタ終了後、本校PTAと校区人権啓発推進協議会の共催による成人教育講演会が開催されました。広島国際大学大学院の向笠章子先生による「自分の気持ちのコントロールが苦手な子どもとの接し方を考える」と題したご講演でした。3年以上に及んだ様々な行動制限のあるコロナ禍での生活により子どもたちが感じているストレスやどの子どもも目標をもって取り組めるようにする接し方などについてお話をされました。子どもたちと関わってこられた経験に基づくお話だったので、私も共感しながら聴かせていただきました。向笠先生から学んだことを本校の子どもたちのために生かしていきたいと思えます。事前準備から当日の運営までご尽力いただきましたPTA成人教育委員会や校区人権協の皆様、ありがとうございました。



## 図書館祭り～読書のよさや楽しさ、おもしろさ



10月16日(月)から11月8日(水)までは図書館祭りでした。今年も、5・6年生の図書委員のみなさんが、様々な取り組みをしてくださいました。みなさんのおかげで、読書のよさや楽しさ、おもしろさを感じている子どもたちが確実に増えています。図書委員会のみなさん、ありがとう。また、三瀨図書館の江頭先生に2回もご来校いただき、ブックトーク(テーマに沿った本の紹介)をしていただきました。19日(木)は4・5・6年生対象、24日(火)は1・2・3年生対象でした。多くの子どもたちが参加し、江頭先生のお話に興味深く聞き入っていました。新たな先生や本との出会いに、さらに読書に興味をもった様子でした。江頭先生、ありがとうございました。

## 認知症サポーター学習会(3年生)

10月23日(月)、3年生は認知症サポーター学習会を行いました。講師として、久留米市キャラバン・メイト連絡会や久留米西地域包括支援センターの方々をお招きし、校区地域福祉部会の会長さんや民生・児童委員の皆様などにもお越しいただきました。

認知症は脳の病気によって誰にでも起こることや主な症状、認知症の方との関わり方などについて学びました。学習会に参加し、子どもたちは認知症サポーターとして、その証であるカードとオレンジリングをいただきました。認知症サポーターといっても、特別なことをする人ではありません。認知症の方を温かく見守り、優しく接する人です。自分ができることを考えて、認知症サポーターの役割を果たしてほしいと思えます。

## 米作り～地域の方々に支えられて(5年生)

5年生は、JAみづま青壮年部の方々に教えていただきながら、米作りに取り組んでできました。11月1日(水)に稲刈りを行いました。初めて鎌を持った子どももいて、最初の方は恐る恐る稲を刈っている様子でしたが、徐々に慣れてくると上手に刈り取っていました。この日、収穫したお米を使って、1月におはぎ作りをする予定です。自分たちが収穫したもち米で作るおはぎは、いつも以上に美味しく感じるのだと思えます。年間を通して、サポートしていただいているJAみづま青壮年部の方々、そして、快く田んぼをお貸しいただいている富松さんのおかげで、子どもたちが貴重な体験をすることができています。地域の方々に支えられて、充実した教育活動を実施することができます。感謝の気持ちでいっぱいです。

